

# 統合データベースプロジェクト

平成21年度予算額:調整中  
(平成20年度予算額:1,100百万円)

【事業の目的】 我が国のライフサイエンス関係のデータベースの利便性の向上を図るため、データベース整備戦略の立案・評価支援、統合化及び利活用のための基盤技術開発、人材育成等を行い、ライフサイエンス関係データベースの統合的活用システムを構築・運用する。

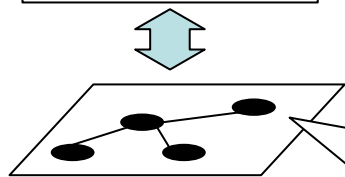
【想定される成果】 これまでの研究成果の蓄積を網羅的・安定的に利用できるようになり、ライフサイエンス研究の発展に不可欠な基盤となる。また統合化アルゴリズムの開発等による既存データの新たな活用や、産業界・医学関係者などによる応用利用を通して新たな知見が得られる。

## 統合データベースとは？

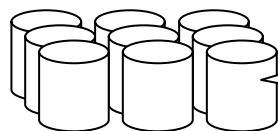
### ライフサイエンス関連データベースの 統合的活用システム



人体、臓器、細胞モデルなどの直感的なインターフェース  
→ユーザーが理解しやすい



類義語・関連語や統合的索引などライフサイエンス知識辞書  
→類似情報の検索や比較、および各種データベースの一括利用が可能



各種データベースへの文献情報の付加、専門家による注釈  
→高い利便性、信頼性

## 【実現するための方策】

※17年度～20年度:

内閣府連携施策群にて実施。

それを受け、文部科学省において、18年度統合DB開始

○18年度先行着手(19年度以降継続)

- データベースの現状調査、評価、整備戦略立案
- ポータルサイトの構築、運営
- 統合化技術の研究開発

○19年度以降本格着手

- 中核的機関整備(公募)による総合的推進
- 統合データベースの開発、運営
- 文献情報との連携やデータへの注釈付加
- 新たなデータベースの構築や活用した研究
- 維持困難となった有用データベースの受入
- データベース開発のための人材育成